プール熱と水イボについて

そろそろ暑い季節となり、プールも始まりますのでプールに関係する病気を考えてみましょう。

「プール熱」とは正式には「咽頭結膜熱」という名称で、主に暑い季節に流行する夏かぜの一つです。3日～7日続く38度～40度の高熱、のどの炎症と痛み、目のかゆみや目やに、結膜炎などが主な症状で、頭痛や鼻水などの一般的なかぜの症状を伴うこともあります。全てがプールと関係があるとは限らないので、発熱とともに目やにが見られたら、小児科を受診するように心がけましょう。ウイルスによる疾患なので、治療は対症療法が中心となりますが、結膜炎が強い場合は小児科のほかに眼科の治療が必要になります。

原因はアデノウイルスの一種が口・鼻の中やのど、あるいは目の粘膜から体に侵入することによるものです。アデノウイルスは粘膜から侵入するのでプールから上がったら、せっけんを使って手を洗い、流水でよく目をすすぎ、うがいをしましょう。感染するのはプールだけとは限りませんので、家庭でも家族間のタオルの共用を避け、うがい・手洗いの励行を心がけましょう。また、咽頭結膜熱は学校保健法で、症状が無くなり2日を経過するまで出席停止と規定されていることを覚えておいて下さい。

「水イボ」は伝染性軟属腫と呼ばれ、ウイルスで伝染する皮膚の病気です。乳幼児から小学校低学年に多く見られます。胸や脇の下など皮膚の薄い場所に半球状の盛り上がりが皮膚と同じ色の発疹として見つかります。発疹自体には症状がありませんが、炎症を起こす(かぶれ)と赤みや痒みが出てきます。ウイルスを含むので掻いたり衣服の摩擦でつぶれ、周囲に広がっていきます。集団生活などでウイルスが直接肌に付着することが原因ですが、健康な皮膚であればうつりにくいと考えられています。水イボはプールの水などによる間接的な伝染の心配はほとんどありません。感染が持続して免疫が付き自然に治癒すると考えられています。

水イボのウイルスは湿疹や肌荒れ、乾燥肌など皮膚に細かい傷があると伝染しやすいのが特徴なので、皮膚を清潔に保ち保湿剤を塗って潤いを与えることが予防法につながるでしょう。感染することよりも、うつる前から広がらないケアをすることが大切です。

ピンセットで摘み取る治療法は、痛みと恐怖感を与えるので次第に行われなくなりました。自然治癒を待つのが基本ですが、皮膚が弱い子や広範囲に広がってしまった場合は小児科または皮膚科を受診してください。水イボは感染して免疫が付くというメカニズムを持つ、心配いらない病気です。

重(再)版のご協力を!

本体1,350円
PHP研究所

[著者]
『小児科医がやさしく教える
赤ちゃん・子どもの病気』
好評につき、お陰様で完売致しました。
★PHP研究所文芸出版部
book@php.co.jpまで、書籍名とともに「重版(再販)希望」と記載の上、メールをお願いします。

Profile

川村和久

小児科専門医

[かわむら・かずひさ] 仙台市在住
医療法人社団かわむらこどもクリニック院長。日本一の小児科サイトを運営する、言わずと知れた小児科専門医。「お母さん達の心配・不安の解消」を理念に、日々の診察にあたっている。宮城県小児科医会理事。2001年には医師として大変名誉のある日本小児科学会パネリストとして選ばれる。
【川村先生の取り組みをNHKテレビが放映】
*3/10 NHK教育「ETVワイド ともに生きる」
医師と患者のコミュニケーション ～心通う医療のために～
*4/17 NHK総合「生活ほっとモーニング」
http://www.kodomo-clinic.or.jp/

★「東京ディズニーランド」　百恵ちゃん(5歳)